

あ な た と 市 政 を む す ぶ



広報
No.236

かんおんじ

6

June

2025 / 令和7年



特集

未来へつなぎたい手仕事

観音寺市の職人2人が新たに県伝統工芸士に 土田さんは8年ぶりに香川漆器の国伝統工芸士に認定

1 (左から) 土田百合香さん、合田眞由美さん
2 池田知事に漆器について説明する土田さん
3 令和6年度香川県伝統工芸士認定式



3月4日、香川県伝統工芸士認定式が県庁で行われ、「讃岐のり染」の大野篤彦さん（琴平町）、「讃岐かがり手まり」の合田眞由美さん、「香川漆器」の土田百合香さんが新たに県伝統工芸士として認定されました。合田さんと土田さんは観音寺市出身です。県伝統工芸士は平成6年度に創設され、今回の3人を加えて合計133人（29品目）で、そのうち観音寺市では4品目6人が認定されています。

土田さんは県の制度創設以来、最年少（36歳）での認定となり、さらに、ことし2月には国の伝統工芸士の認定を受けました。香川漆器での伝統工芸士認定は8年ぶりとなります。

土田百合香さんの
香川漆器作品



特集

未来へつなぎたい手仕事

令和6年度香川県伝統工芸士に観音寺市の合田眞由美さんと土田百合香さんが認定されました。地域で受け継がれてきた手仕事である伝統的工芸品について紹介します。

伝統的工芸品とは

主に日常生活の用に供されるもの、主な工程が手作業であること、伝統的な技術・技法が100年以上続いているもの、100年以上の歴史を持つ原材料であること、一定の地域で産地を形成しているもの。これらの5つの条件に当てはまるものが、「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」に基づき、経済産業大臣の指定を受けて「伝統的工芸品」と呼ばれます。

香川の伝統工芸

国が指定する伝統工芸のほか、都道府県ごとに指定するものもあります。香川県では、国指定の伝統工芸品である「香川漆器」と「丸亀うちわ」のほかにも、観音寺市に深い縁のある「讃岐かがり手まり」や市内で古くから盛んだった「讃岐鍛冶製品」「讃岐のり染」「節句人形」「金糸銀糸装飾刺繍」など、37品目が「香川県伝統的工芸品」に指定されています。

手仕事を守るために できることは

機械で大量に生産される製品が主流となり、手仕事による伝統工芸は後継者不足などの問題を抱えています。

香川県をはじめ、全国各地の風土に根付いた工芸の文化を守っていくためには、まず「知ること」。さらに、職人が作った商品を使ったり、伝統工芸の製作体験に参加したり、産地を旅したり、自分ができることで伝統工芸が未来へ続いていくことができるよう支援してみませんか。

合田眞由美さんの
讃岐かがり手まり作品



香川の伝統工芸を未来へつなごう 大阪・関西万博でPR



大阪・関西万博
公式キャラクターミャクミャク



4月30日から5月3日まで、大阪・関西万博で県内自治体がブースを設けて、伝統工芸や食文化をPRしました。

本市では、讃岐かがり手まりをはじめ、金糸銀糸装飾刺繍、水引細工などを展示し、さらに伝統工芸士や職人たちの動画を放映して作品の魅力を伝えました。



連日にぎわった観音寺市のブース。特産品の試食や試飲コーナーを設け、食文化も発信

©Expo 2025



漆塗りに欠かせない、人毛が使われた刷毛。この刷毛を作る職人は少なくなっているそう



制作途中の蒔轆（きんま）作品は、20の工程を経て完成までに半年から1年はかかる。漆は10回以上塗り重ねていく



さぬきうるし Sinra

土田 百合香さん（豊浜町）

経済産業大臣指定伝統的工芸品
香川漆器 塗り部門 伝統工芸士

ものの作りが好きで、高松工芸高校に進学、2年次の進路選択の際に金属工芸と迷いましたが、色の美しさと仕上がりの多彩さから漆芸を選択しました。

高校卒業後、県漆芸研究所で5年間学び、漆芸をずっと続けられる道を探していました。作家として伝手もなく、どうしたら良いかと思う時期もありましたが、瀬戸内国際芸術祭の男木島での「漆の家プロジェクト」に関わったことで漆芸家の松本光太さんと知り合い、そのご縁で漆芸家仲間で作る団体「さぬきうるしSinra」で活動しています。

漆芸は長年やっていても新たな発見があり、

沼のように深い分野。県内外の技法や歴史など、知れば知るほど勉強しなければいけないことが多いです。私は、木地制作も自分でできるようになりたかったので、木工家さんのもとで木材の加工技術を学びました。木地から作る漆芸家は少ないと思います。

普段はずっと作品と向き合っていますが、お店に行った際に、購入した方から「使いやすかった」「また買いに来たよ」と言っていたけるとうれしいです。漆器は軽くて持ち運びやすく、長く使い続けることができます。生活に取り入れやすく、きれいだと思ってもらえるものをめざして、今後も制作を続けていきます。



県内の女性伝統工芸士3人による香川漆器を展示販売



漆塗りの玉を使ったストラップ作りの様子

土田さんの作品は、高松オルネ（JR高松駅）で6月1日まで開催中の「女性伝統工芸士三人展」やさぬきうるしSinra（綾川町）のホームページから購入できます。5月3日には土田さんによるワークショップが高松オルネで開催されました。



さぬきうるしSinra
ホームページ



香川県伝統工芸士

讃岐かがり手まり保存会

合田 眞由美さん（吉岡町）

自宅近くの銀行の店舗に展示されていた讃岐かがり手まりを見て、「こんなのあるんや」と思っていたところ、ちょうど讃岐かがり手まり保存会養成講座1期生の募集があり申し込んだのがきっかけです。2010年から月1回の講座に通い、現在まで続いています。初めて出会った時から今も、讃岐かがり手まりの存在自体に引き込まれています。

讃岐かがり手まりは瀬戸内国際芸術祭や百貨店催事、最近は羽田空港国際線ターミナルでも販売しています。手まり普及のためには、注文に応じて商品を納品していくことが必要ですので、日々積極的に作っています。



桜模様の手まりは仕事の合間を見つけて少しずつかがり、1週間ほどで完成



直径約2センチメートルの手まりはストラップ用

手まりを作るために大切なのは、最初にもみ殻と和紙を使ってきれいな球体を作り、かがる前に長さを測って針を刺す位置を正確に決めていく「地割り」という作業です。かがり方には規則性があり、新しい模様を刺す時はワクワクします。手まりは色使いで全く印象が変わるので、色選びは今でも一番迷います。色は永遠の課題ですね。

私の活動を家族は見守ってくれており、県伝統工芸士に認定されたときは「こんなに続くとは思わなかった」と言いながら褒めてくれ、うれしかったです。今後も、いち作り手として、作り続けていきたいと思っています。

合田さんをはじめ讃岐かがり手まり保存会の作品はオンラインショップや工房で購入できます。

讃岐かがり手まり保存会
（高松市観光通2丁目3-16）
時間：月～土曜日（祝休日を除く）
午前10時～午後5時



5月3・4日に開催された「讃岐かがり手まり工房展2025」



保存会工房では体験教室を随時開催しています



讃岐かがり手まり保存会
ホームページ



3・4 観音寺総合高等学校では、総合学科食物系列選択の3年生が、毎年12月に漆器製作体験を行っている。調理師免許取得に向けた専門教科を履修する中で、漆器を含めた食器の材質等について学習しており、その一環で伝統工芸士から漆器技法や製作方法を学んでいる。飯野尚子教諭は、「ほとんどの学生が香川漆器について知らないため、この取り組みを通して県の伝統工芸を知ってもらい、香川の良さを生かせるような料理人に成長してほしい」と話す

5 観音寺総合高校の生徒が色漆で蒔絵盆に描いた模様。蝶や花、家で飼っている犬など、思い思いの絵を描いた。体験した生徒からは「この経験と勉強してきた食の知識を生かして、漆器をうまく取り入れた盛り付けを考えたい」という声が聞かれた。

江戸時代後期に高松藩の漆工・玉楮象谷（たまかじ ぞうこく）が中国や東南アジアの漆技法に独自の技を加えて、新たな加飾技法を確立させました。「蒟醬（きんま）」「存清（ぞんせい）」「彫漆（ちょうしつ）」と呼ばれる3つの独自技法は、高松藩主松平家による保護や奨励によって、大きく発展を遂げていきます。これらの技法に加えて、玉楮象谷の名を取った「象谷塗」、高松藩士・後藤太平により創案された「後藤塗」は「香川漆器5技法」と呼ばれています。

玉楮象谷によって生み出された香川漆芸は、磯井如真（いそい じょしん）や音丸耕堂（おとまる こうどう）など数多くの名工に受け継がれ、人間国宝（重要無形文化財保持者）を6人輩出しました。現在も活躍する漆芸関係の人間国宝9人のうち、2人は香川漆芸の関係者で、香川県が全国有数の漆器生産地であることを示します。近年、若手作家によるカラフルな色合いや個性的なデザインの作品も作られ、人気が高まっていますが、伝統工芸士の土田百合香さんは香川漆芸の未来を見つめて話します。

「今は教材から香川漆芸の記述が少なくなっていると聞きます。知る機会がないと、文化は衰退していくので、教育事業などを通して、できるだけ各地の学校に教えに行きたいです。漆芸に関わる人、子どもたちから漆器を使う人が増えていけばうれしいです」。

●学生等に対する伝統的工芸品教育事業

伝統工芸士が学校に出向き、香川漆器の説明や製作体験指導を行っています。

対象：県内の小学校、中学校、高等学校

●これから開催されるイベント予定

「香川の漆器 伝統工芸士まつり」

機間：10月16日（木）～ 20日（月）

会場：栗林公園 商工奨励館

「香川漆器・ぬり・もの・がたり」

期間：11月7日（金）～ 9日（日）

会場：イオンモール綾川 1階グリーンコート

問い合わせ先 香川県漆器工業協同組合

☎087-841-9820 ㊟087-841-9854

たまかじぞうこく 玉楮象谷が生み出した香川独特の漆工技法

かんおんじの荒木さん夫婦がつないだ手まり文化

手まりは古くから日本各地で作られていました。香川の手まりはもみ殻を芯に使用し、「讃岐三白」と呼ばれる三大名産品の一つで、豊浜町の特産品だった綿から作った木綿の糸を草木染めしてかかる素朴な玩具でした。明治以降、安価なゴムまりの普及で、糸でかかる手まりは全国的にすたれていきましたが、讃岐地方のかがり手まりの技術の復元と伝承に力を注いだのが、観音寺市の故・荒木計雄さんと八重子さん夫妻です。

県庁職員だった計雄さんは、日本各地の伝統工芸品や生活工芸品、郷土玩具を集めた「讃岐民芸館（栗林公園内）」の設立に尽力する中で、地元の手まりに出会い、昭和52年に「讃岐かがり手まり」と命名。昭和58年に讃岐かがり手まり保存会を設立します。同時に「讃岐習俗参考館（八幡町・現在閉館）」を私設し、各地の民藝品や資料を公開しました。

讃岐習俗参考館を訪れるうちに手まり作りに深く関わるようになったのが、同じく観音寺市に生まれ、保存会現代表の永子さんです。縁あって荒木家に嫁いだ永子さんは、現在は約100人の作り手とともに讃岐かがり手まりの魅力を広く伝える活動を行っています。

「伝統の技を守りつつ、現代の暮らしに取り入れられるものを考案し、手まりの豊かさを未来の人に伝えていきたい」と話す永子さん。荒木夫妻の思いは永子さんと讃岐かがり手まりの作り手たちに受け継がれています。

讃岐かがり手まり工房体験レッスン

手まり作りを体験できる教室を開催しています。

①讃岐かがり手まりじっくり体験（約150分）

対象：2～5人（高校生以上）

料金：5,500円

②讃岐かがり手まりちょっぴり体験（約90分）

対象：1人以上（小学生以上、小・中学生は保護者同伴）

料金：3,300円

時間：午前10時30分～／午後1時30分～

会場：讃岐かがり手まり保存会工房（高松市観光通）

申し込み方法：3日前までに要予約

持参物：なし

申し込み・問い合わせ先 讃岐かがり手まり保存会

☎㊟087-880-4029

㊟shop@eiko-temari.jp



1 讃岐かがり手まりを体系付けた荒木計雄さん
2 荒木八重子さん（写真右）は平成8年に女性初の香川県伝統工芸士（讃岐かがり手まり）に認定された



3 讃岐かがり手まり保存会代表で県伝統工芸士の荒木永子さん（写真左）。書籍やテレビ出演、講演、都市部での講座など、讃岐かがり手まりの価値を高める活動に尽力してきた。「合田眞由美さんの存在は心強い」と語る



4・5 八重子さんのかがり手まり。「義母が色とりどりの糸に囲まれるようにして手まりをかがっていた姿が印象的。義母は優しい人で、『やさしく糸をかがっていったら、優しいまりになるよ』と教えてくれた。穏やかな人柄が手まりに表れていると思う」と永子さんは話す

